

緑がつなぐ町・人・暮らし

一般財団法人第一生命財団では、公益財団法人都市緑化機構と共に、「緑の環境プラン大賞」(共催)、「緑の都市賞」「屋上・壁面緑化技術コンクール」(いずれも特別協賛)の、「都市の緑3表彰」に取り組んでいる。これらは、都市緑化を通じ、環境保全、ヒートアイランドの抑止、二酸化炭素の削減、緑のまちづくりや植栽活動を通じたコミュニティの形成などに貢献する事業を支援、顕彰するもので、全国各地で、すでに多くの取り組みが実績をあげている。これらに選出された事業のなかから、とくに都市環境の向上やまちづくりに資する事例を取材し、緑を通じたまちづくりを紹介していく。

取材・文:斎藤夕子 photo:坂本政十郎

「グランドメゾン浄水ガーデンシティ」

緑の都市賞 国土交通大臣賞:緑の事業活動部門

福岡県福岡市、「天神ビックバン」と称する大規模再開発が進む福岡市の中心市街地、天神エリアから約1.5kmの距離に位置する「グランドメゾン浄水ガーデンシティ」。積水ハウス株式会社が展開する分譲マンションシリーズの一つとして2013年に整備がスタート。全体で約3.5haに及ぶ広大な敷地内には、第1期として2015年に竣工した「サウスフォレスト」、第2期として2019年に竣工した「フォレストゲートⅠ・Ⅱ・Ⅲ」3棟が、それぞれ分棟形式で配され、現在、第3期として「セントラルフォレストⅠ・Ⅱ」2棟が2023年竣工予定(Ⅰは2022年竣工)で建設中だ。住戸数は全体でおよそ670戸に及ぶという、大規模な集合住宅群である。

地域に開かれた緑の空間

「浄水」の名称は、敷地が接道する「浄水通り」に由来するが、もともとはこの地域に、1923年に開設された「平尾浄水場」があったからだ。浄水場は1970年代に廃止されたが、その跡地

は浄水緑地や、福岡市動植物園を有する南公園として整備され、市民の憩いの場となっている。また、敷地内で最後の工事が行われているセントラルフォレストのエリアは、2019年に閉館するまで、福岡市立九電記念体育館があった場所で、同体育館は1964年の竣工以降、一時は大相撲の九州場所に利用されたり、国内外の有名ミュージシャンのコンサート会場になるなど、広く市民に親しまれてきた。

そうした背景をもつこの土地で、新たな住宅開発を行うにあたっては、こ

こに暮らし、訪れる人々が、豊かな自然環境のなかで交流を育めるようなまちづくりを行うことがコンセプトとなった。2013年、敷地の南側に位置する「サウスフォレスト」の建設に着手すると同時に、一帯を「浄水の森」と位置付け、浄水緑地と連動する植栽計画を構想。敷地全体の約3分の1にあたる、1.1haを緑地とし、これを2023年までの10年をかけて育成。緑化を通じて、生態系の再生と地域住民との交流活性化を目指してきた。

「都心部でありながら十分な広さがあ



●ゆったりとした敷地に、さまざまな樹種が厚みのある緑の空間をつくる「グランドメゾン浄水ガーデンシティ」



左●小学校や高校のある敷地の東側から住棟群をのぞむ。緑に覆われた散策路「フットパス」は、子どもたちの通学路としても使われている

上●フットパスを蛇行させることで、緑の奥行きが演出されている

り、緑を生かせる恵まれた敷地でした。そこで近隣の浄水緑地や動植物園との連動性を意識した緑の回廊を構成し、生態系の中継点として自然環境の再生に貢献できるように、さらに、居住者はもちろん、周辺地域の方々にも公園のように利用していただけるような、都市の森づくりを進めています」

そう教えてくれるのは、積水ハウス株式会社福岡マンション事業部の鈴木詠美さんだ。

確かに、鈴木さんが言うように、浄水通りから同敷地内へは、公園を訪ねるような気軽さで足を踏み入れることができる。そのポイントとなっているのが、浄水通りに面して大きく開かれたテラス席をもつカフェが入居した、「JOSUI TERRACE」と称する商業施設の存在だ。この施設は、敷地を隔てるゲートの役割も果たしているのだが、誰もが利用できる商業施設があることで、そこから奥へ続く緑豊かな散策路へと、アクセスしやすい雰囲気がつくられている。実際、「フットパス」と称するこの散策路は、誰でも通行可能で、敷地裏手の小学校や高校に通う

子どもたちの通学路として、また、地域の人々の散歩道としても使われているという。また、フットパスを歩いても、マンションの敷地だという気配は希薄で、居住者も地域の人も気兼ねなく、緑に覆われた環境を満喫できる。こうした心地よさは、住棟の配置を工夫したことで創出されているようだ。

「住棟を浄水通りに対して平行ではなく、南北軸に配したことで、通りから住棟までの奥行きができ、その分、緑地が十分に確保されています。これに

より、高木を含む多くの樹木を植栽することが可能になり、いっそう充実した緑の空間をつくることができました。また住棟間にもほどよい距離をとって緑化しているので、居住者にとっても、緑が目隠しになると共に、室内に居ながらにして屋外の自然を感じられる、風通しの良い居住空間が実現しました」

さらに鈴木さんによれば、マンションは通常、高層階の人气が高いが、このグランドメゾン浄水ガーデンシティでは、樹々の緑がより身近に感じられ



●敷地の中央部に位置する「浄水の丘」。人工地盤上に軽量土壌を用い、浄水緑地とのつながりを意識した緩やかな丘陵として整備。人工地盤の下は駐輪場となっている



上●浄水通りに面し、敷地とのゲートの役割も担う商業施設「JOSUI TERRACE」。テラス席のあるカフェは地域の人々で賑わう
左●「JOSUI TERRACE」から敷地内へと続くフットパス

る低層階の人気の高いそうだ。

四季を感じる「自然循環の森」

緑化にあたっては、既存樹としてあったケヤキやツツジも生かしながら、敷地周辺の潜在自然植生である「ヤブツバキクラス域」「ミミズバイ-スダジイ群集」に属する在来種を意識して植樹しているという。具体的には、浄水通りに面した沿道にはケヤキ、シラカシ、シロダモなど中高木のボリュームある緑を植えて街路樹に。住棟内庭の南側には、春から初夏に花をつけるガマズミ、ヤマボウシ、シラカシなど。同じく住棟内庭でも陰になりやすいエリアには、ヤマツツジ、イロハモミジなどの紅葉を楽しめる樹種を。またフ

ットパスの周辺には、季節の彩りを与えるヤマザクラやコブシを植栽。敷地全体を通じて、四季折々の自然の移ろいを感じられる構成となっている。さらに、地域の自然の森を手本にした配植密度とすることで、新たな幼木が成長していく「自然循環の森」となるよう、配慮しているという。

一方で、地域住民らとの交流については、計画どおりには進んでいないと鈴木さんは言う。

「居住者や地域の方々との、緑を通じたワークショップや、ハロウィン、クリスマスなどの季節のイベント開催を想定していたのですが、コロナ禍により、現在のところ大々的には開催できていません。ただ、フットパスでの散

策を通じ、地域の方々や子どもたちとの交流が自然発生的に生じてきていることは実感として得ています」

他方、地域への環境貢献としては、敷地内の緑化が市街地約200mの範囲に対してクールアイランド効果をもたらし、夏場でも、最大-3℃の冷却効果が見込まれているという。

2023年、現在工事中のセントラルフォレストⅡの完成により、「浄水の森」プロジェクトは完結する。だが、暮らしの場としての成熟はここからがスタートだ。「浄水の森」を構成する豊かな緑が地域のランドマークとなり、居住者はもとより、地域の人々の暮らしをも、豊かに彩っていくことを期待したい。



上●「フォレストゲートⅡ」のラウンジ。住棟内からも豊かな緑が感じられる

右●「セントラルフォレストⅠ」内のライブラリから「浄水の丘」を臨む

